

第3章 計画の目指す姿

1 目指す姿

全国有数の国際観光都市である本市の観光施策が今後も持続的に効果を発揮し続けていくために、地域が一体となって取り組む「持続可能」な観光を本市観光のあるべき姿に掲げます。

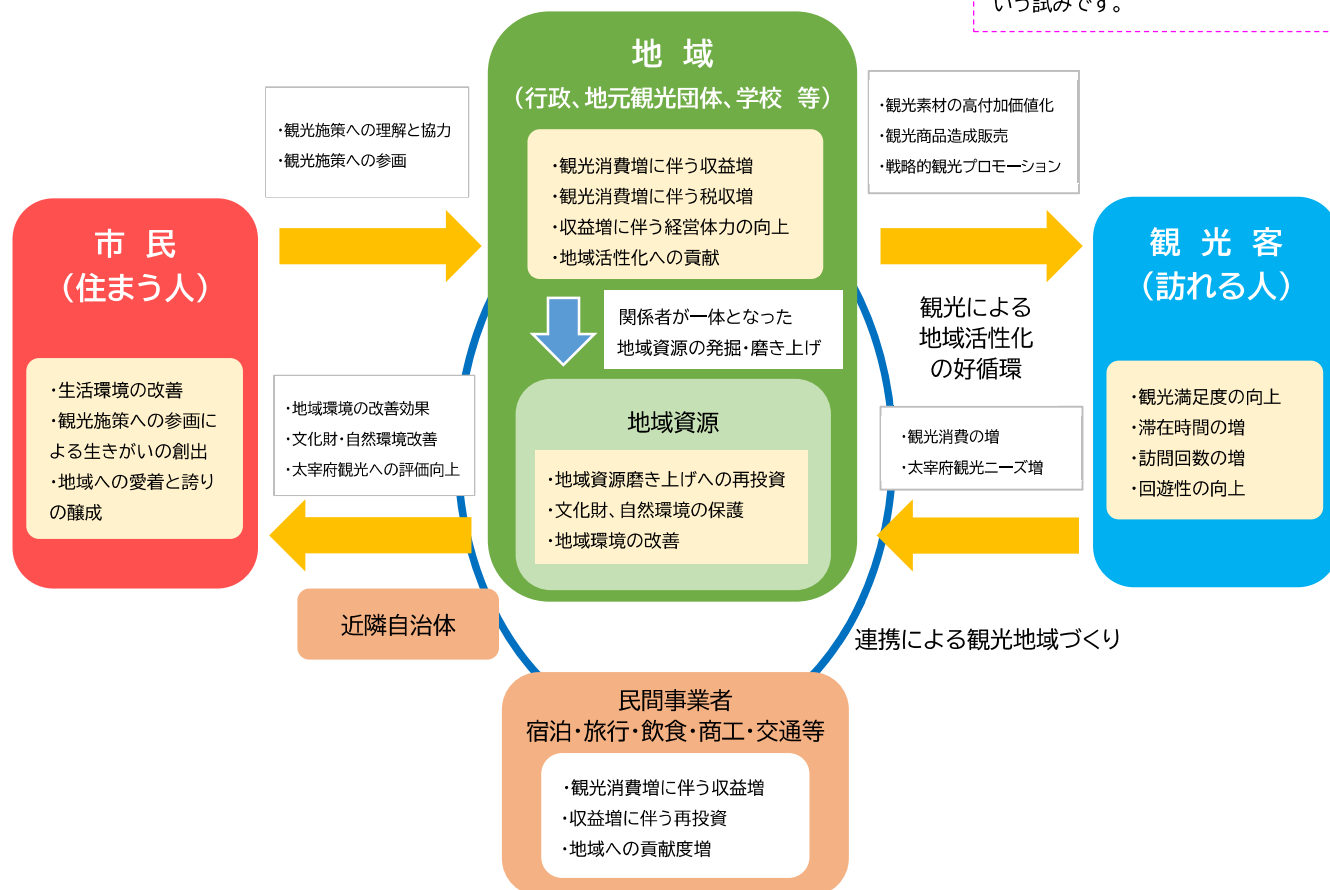
「令和の都だざいふ」として本市が有する歴史や文化などの地域資源を活用して、地域市民や民間事業者等と連携し体験型観光による地域活性化を促進するとともに、観光客からの経済税収効果をさらに高め、市民にその効果を還元できる観光まちづくりを目指します。

目指す姿

住まう人も、訪れる人もともに喜びを分かち合える“令和の都 だざいふ”
～大太宰府観光への挑戦～

～太宰府・大宰府・だざいふについて～
古代は「大宰府」と表記されていましたが、中世以降「太宰府」の表記へと移り変わりました。
「だざいふ」の表記は、いにしへの「大宰府」もいまの「太宰府」もあわせてまるごと「だざいふ」の魅力をアピールして行こうという試みです。

観光を核とした地域活性化(イメージ図)



2 計画に盛り込む要素

① 「数」の観光から「質」の観光へ

本市の観光客の多くは、太宰府天満宮への参拝や参道での食べ歩きが中心の観光をしているため、観光消費額単価が低く、観光客数の増が観光消費の拡大につながっていない状況です。

本市が有する史跡や文化財等の地域資源を活かし、体験型メニューへ発展をさせることで、高付加価値な観光コンテンツの造成・磨き上げを図ります。

インバウンド*については、欧米豪やアジアを中心に、体験メニューへの関心が高い国や地域への集中的な誘客を図ります。

② 「観光消費額単価増」による経済税収効果拡大

史跡や文化財等の多様な地域資源を活かした、本市ならではの観光コンテンツ(特産品、体験プログラム等)を造成し、市内各所への観光客の回遊性を向上させることで、滞在時間の拡大やリピーター増加による継続的な経済効果が期待できるシステムを構築します。

③ 民間事業者の活力を活用した「サステナブルな観光」の実現

民間事業者のノウハウ等を活用し、地域資源(人、モノ、コト)を掘り起こし、年間を通して体験可能な観光コンテンツを造成することで、観光客のリピート率を高め、サステナブルな観光を実現します。

④ オーバーツーリズム*への対応

多くの観光客の来訪に伴い、ごみのポイ捨て、トイレ・喫煙マナー、交通渋滞等のオーバーツーリズム*に関わる問題が発生します。これらの問題に対し、地域一体となった対策を行います。

⑤ DMO*を含む自立型地域観光組織体制の検討

「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの司令塔となるDMO*を含む自立型地域観光組織体制の構築に向け、調査検討を進めていきます。

⑥ 市民と観光客の相互発展

住まう人も、訪れる人も、ともに慶び合えるまちとして、観光客からの経済税収効果を飛躍的に高め、行政サービスの充実や交通体系の改善という形で市民への還元に努め、また観光推進を通して人々の交流の場や活躍の場の広がりや住環境・景観の保全といったメリットを市民が体感できるような仕組みをつくります。

⑦ 文化・観光施設の有効活用に向けた検討

太宰府館の有効活用に向けた民間活力導入も含めた調査を行い、管理運営方法も含めた方向性を検討します。また、大宰府展示館、水城館、文化ふれあい館との4館で、文化観光を推進していく上でのそれぞれの位置づけを明確にし、連動して機能を発揮するための手法について検討します。

⑧ 安心安全の観光地域づくりの推進

災害や感染症をはじめとする様々な危機に対し、市民や観光客を守るための迅速な対応を諮れるよう、観光危機管理の視点を持って平時から安心安全な地域づくりを進めていきます。

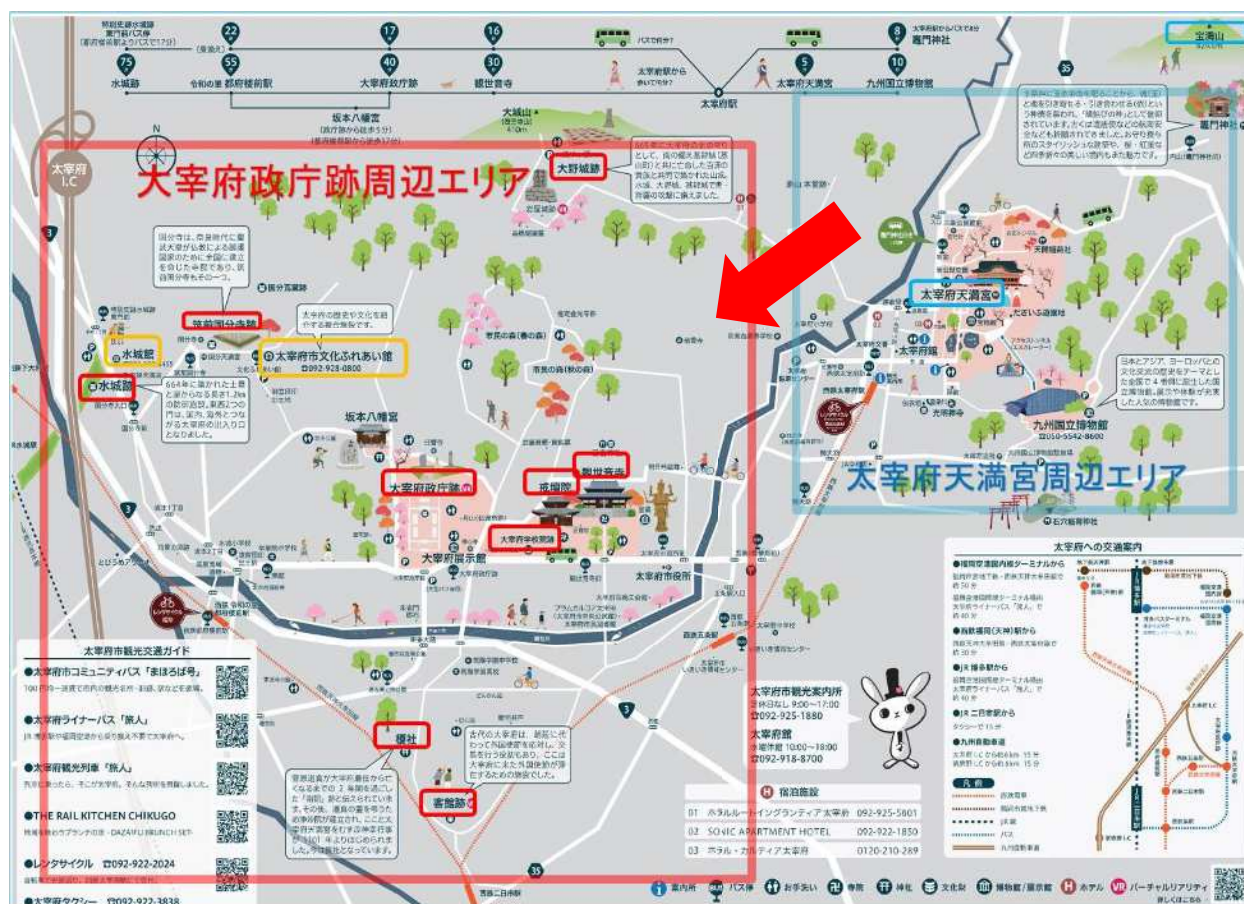
3 基本戦略

本市の観光を取り巻く状況と目指す姿、計画に盛り込む要素に基づき、本市が今後5年間に取り組むべき観光戦略として、5つの基本戦略を設定します。

基本戦略1 観光コンテンツの開発・磨き上げ

本市は多くの観光客が訪れる一方で、通過型の観光客が多く、観光客数が観光消費額に繋がっていないという課題があります。また、大宰府政庁跡周辺エリアにも大宰府政庁跡をはじめ水城跡、観世音寺等、様々な史跡文化財や伝統行事、自然などの観光スポットがありますが、観光客の大半が大宰府天満宮周辺エリアに集中しており、またそれらの観光スポットへの周遊に繋がっていない状況にあります。

回遊性を高め、観光消費額単価の増加に繋がるような体験メニューや特産品などの新たな観光コンテンツの開発や既存の観光コンテンツの磨き上げを行います。その際、回遊性向上による観光客の一極集中の解消や、リピート率を上げることでライフタイムバリュー(顧客生涯価値)の向上を図ります。



基本戦略2 効果的な観光プロモーションの推進

新型コロナウイルス感染症の影響により、その間、本市の観光推進事業や観光プロモーションも縮小を余儀なくされてきました。

令和 5(2023)年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行により、全国的なプロモーションが本格的に再開されていることから、これらの機会を捉え、シティプロモーションも含めた効果的な場やターゲット、手法でプロモーションを図っていきます。

また、本市への誘客のみではなく、大宰府政庁跡周辺エリアへの誘客を目的としたプロモーションを行うことで、回遊性の向上へと繋がります。

国外においても、コロナ前から多く来訪されていた中国、韓国、台湾の観光客に加え、欧米豪やタイをターゲットとするプロモーションも行っていきます。

基本戦略3 受入環境の整備・充実

観光客が多く訪れることに伴い、ごみのポイ捨てやトイレ・喫煙マナー、交通渋滞等のオーバーツーリズム*に関する問題が発生しています。また、市内二次交通の利便性が低いことが観光客の太宰府天満宮エリアへの一極集中の一因となっていると考えられます。そのほか、インバウンド*の増加による言語・文化の違いから生じる問題への対応や、高齢や障がい等の有無にかかわらず、すべての人が観光を楽しめるような環境整備(ユニバーサルツーリズム*への対応)が必要とされています。

ごみ箱設置の検討やマナー啓発、交通の利便性向上等のオーバーツーリズム*対策を進めるほか、観光コンテンツの品質向上、各種案内の充実、バリアフリーへの対応等を行うことで、本市を訪れるすべての人が観光を楽しめる環境づくりを目指します。

また、太宰府館は令和 6(2024)年で開館から20年を迎え、施設の老朽化が進んでいることから、太宰府館の計画的な改修を行っていくとともに、太宰府館の有効活用に向け、民間活力導入も含めた今後の運営手法の検討も行っていきます。

基本戦略4 関係機関との連携強化

本市は多くの観光資源を有していますが、それらを最大限生かした観光施策を進めるためには様々なノウハウや設備を保有している民間事業者や各種関係機関との連携が必要です。また、本市には5つの大学・短期大学、4つの高校があることから、全国有数の学園都市としての側面もあり、観光分野においてもこれらの学校との連携が進められております。そして県、九州はもとより、文化財や交通機関等を共有する近隣市町村や友好都市・姉妹都市といった交流関係を活かすことで、より充実した観光施策が展開できます。

各種関係機関(民間事業者、学校、国内外自治体等)との連携を深めることで、一体的な合意形成と事業推進に取り組めます。

基本戦略5 持続可能な観光地域づくり

国連世界観光機関(UNWTO)*では、「持続可能な観光」について、「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義しています。そして、国の観光立国推進基本計画でも「持続可能な観光地域づくり」を戦略に盛り込んでおり、今後の観光施策を推進する上で、環境への配慮や地域資源の保全、観光人材の育成、地域住民の観光施策への参画といった、持続可能な観光地域づくりという観点はますます重要視されてきています。

このことから、本市においても、「持続可能な観光」の実現に向け、各種施策を推進していきます。また、DMO*を含む自立型地域観光組織や、災害や感染症という危機から地域や観光客を守る観光地域づくりなど、本市の観光に関する体制づくりについても持続可能な観光地域づくりという観点に基づき推進していきます。

基本戦略1 観光コンテンツの開発・磨き上げ

～背景・課題～

- ◇通過型の来訪者が多く、観光客数が観光消費額の増加に繋がっていない
- ◇太宰府天満宮及び参道エリアに観光客が集中

～方針～

- ◇回遊性・リピート率向上や観光消費額単価の増加に繋がるような新たな観光コンテンツの開発や既存の観光コンテンツの磨き上げ

基本戦略2 効果的な観光プロモーションの推進

～背景・課題～

- ◇太宰府天満宮周辺エリアから大宰府政庁跡周辺エリアへの周遊するためのコンテンツ及びプロモーションの不足
- ◇コロナの影響による海外向けプロモーションの未実施
- ◇海外向けのプロモーションの機会や情報発信媒体の不足

～方針～

- ◇大宰府政庁跡周辺エリアへの周遊促進のためのコンテンツ造成と合わせたプロモーションの実施
- ◇機会を捉えた観光プロモーションの強化
- ◇欧米豪、タイなど、新たなターゲットを捉えた海外プロモーション

基本戦略3 受入環境の整備・充実

～背景・課題～

- ◇ごみのポイ捨て、トイレ・喫煙マナー、交通渋滞等のオーバーツーリズム*に関する問題が発生
- ◇インバウンド*やユニバーサルツーリズム*に向けた環境整備のニーズ増
- ◇太宰府館の老朽化及び収支不均衡による運営方法の再検討

～方針～

- ◇オーバーツーリズム*への対策案の検討及び実施
- ◇観光コンテンツの品質向上や各種案内の充実、バリアフリーへの対応
- ◇太宰府館の計画的な改修及び有効活用に向けた民間活力導入の検討

基本戦略4 関係機関との連携強化

～背景・課題～

- ◇本市が持つ多くの観光資源について、効果的な活用を図るためのノウハウや設備等が不十分
- ◇筑紫野市との観光施策にかかる連携が不十分
- ◇本市は全国有数の学園都市であり、これまで大学等と様々な分野で連携し取り組んできた実績あり。

～方針～

- ◇各種関係機関(民間事業者、学校、国内外自治体等)の効果的な連携による課題解決

基本戦略5 持続可能な観光地域づくり

～背景・課題～

- ◇世界的な「持続可能な観光」への関心の高まり

～方針～

- ◇観光コンテンツとなる地域資源の保全、人材の育成
- ◇観光地域づくりの司令塔としてのDMO*を含む自立型地域観光組織体制の検討
- ◇本市観光に対する市民の意識・満足度向上と観光施策への参画を通じた地域への愛着と誇りの醸成
- ◇災害や感染症などから地域や観光客を守るための安心安全な観光地域づくり

4 計画の指標(KPI*)

本計画において、将来の本市の観光戦略の成果目標として、3つのKPI*を設定します。

(1)観光消費額単価

内容	観光客の太宰府市内での観光消費額の単価(1回の来訪あたり・1人あたり)
設定の目的	経済効果に関わる指標として設定
計測方法(案)	観光客に対するアンケート(聞き取りやWEB等)
実績値 令和 5(2023)年度	日本人観光客:4,663 円 外国人観光客:4,998 円
目標値 令和 10(2028)年度	日本人観光客:5,600 円 外国人観光客:6,000 円

(2)リピート率

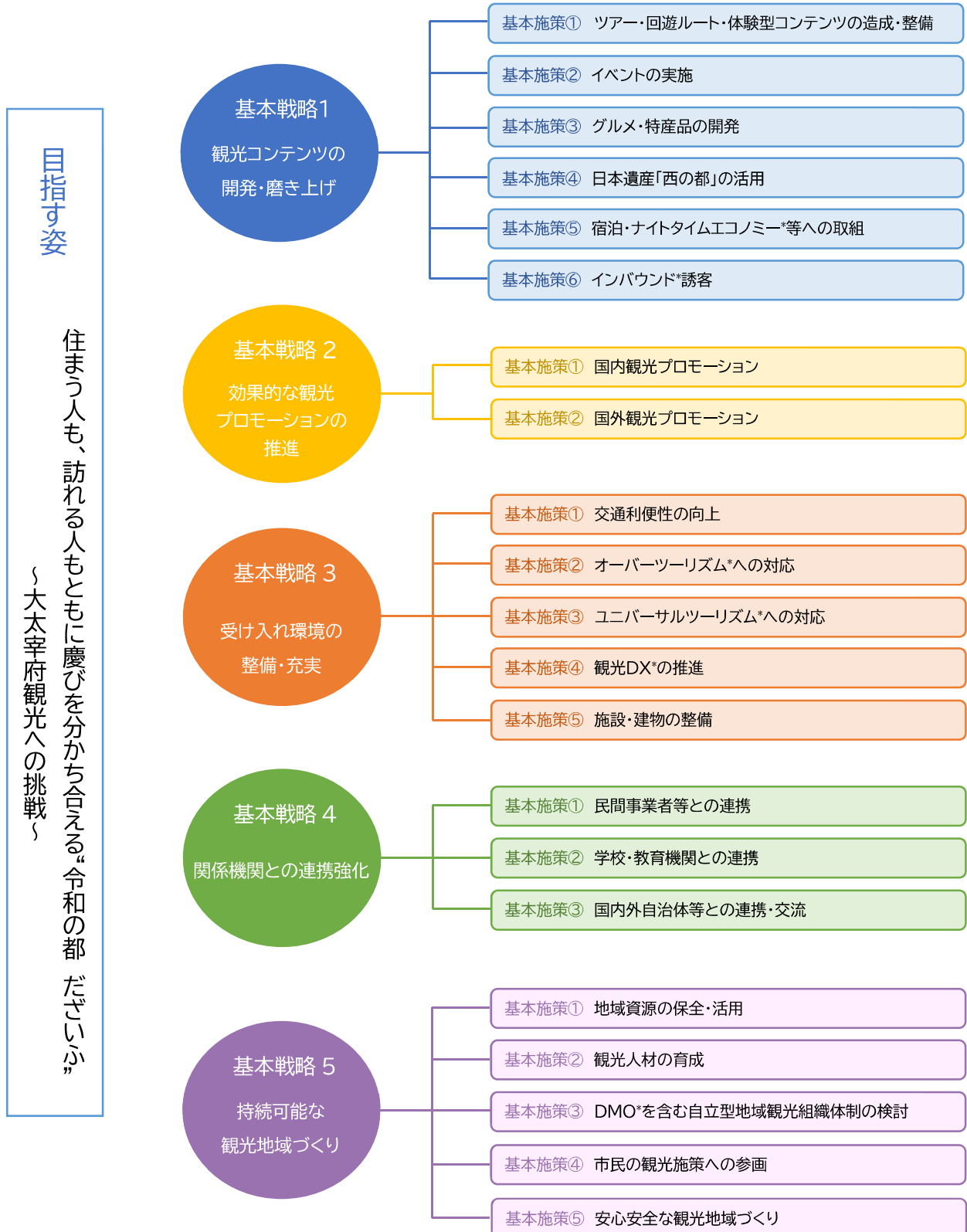
内容	太宰府市を訪問している観光客における2回目以上の訪問である割合
設定の目的	「サステナブルな観光」に関わる指標として設定
計測方法(案)	観光客に対するアンケート(聞き取りやWEB等)
実績値 令和 5(2023)年度	日本人観光客:54.4% 外国人観光客:17.0%
目標値 令和 10(2028)年度	日本人観光客:57.9% 外国人観光客:20.5%

(3)観光に対する市民意識

内容	観光客の来訪に対して「好ましい」と考える太宰府市民の割合
設定の目的	住民の観光に対する意識に関わる指標として設定
計測方法(案)	市民意識調査(太宰府まちづくり市民意識調査)
実績値 令和 4(2022)年度	80.4%
目標値 令和 10(2028)年度	85.0%

5 施策体系

本計画の体系図は以下の通りです。



6 各基本施策における方針と主な取り組み(例)

基本戦略1 観光コンテンツの開発・磨き上げ

基本施策	方針	主な取り組み(例)
① ツアー・回遊ルート・体験型コンテンツの造成・整備	回遊性向上に繋がるようなツアーや回遊ルートを造成・整備	・テーマ別周遊ルートの造成 ・体験型コンテンツの造成、商品化 ・4館(太宰府館・太宰府市文化ふれあい館・大宰府展示館・水城館)の役割整備・ルート造成 ・スタンプラリー等、コレクション性やゲーム性のある要素を持ったルートの開発
② イベントの実施	回遊性向上や消費額増に繋がるようなイベントを実施	・市民参加型まち歩きイベント ・『Pokémon GO』太宰府市公式ルートを活用したイベント ・「令和の都だざいふ」令和記念事業 ・史跡地でのフードトラック、マルシェ等出店
③ グルメ・特産品の開発	消費額増に繋がるようなグルメ・特産品を開発	・梅を用いた特産品の開発(梅プロジェクト) ・開発した商品のふるさと納税返礼品ノミネート検討
④ 日本遺産「西の都」の活用	日本遺産「西の都」を活用した観光コンテンツを開発	・「西の都」観光体験メニューの開発 ・「西の都」特製土産物の開発
⑤ 宿泊・ナイトタイムエコノミー*等への取組	宿泊やナイトタイムエコノミー*等、様々な時間帯に関するコンテンツを充実	・体験型宿泊プランの造成 ・宿泊施設の誘致
⑥ インバウンド*誘客	インバウンド*誘客に向けたコンテンツ開発	・日本文化の体験メニュー開発支援 ・外国人ニーズの高いコンテンツ造成 ・市外観光地含む広域周遊ツアーのオプションとなるコンテンツの造成

基本戦略2 効果的な観光プロモーションの推進

基本施策	方針	主な取り組み(例)
① 国内観光プロモーション	・全国的な商談会や大規模誘客イベント等の機会を使った効果的なプロモーションの実施 ・来訪者への「令和の都だざいふ」の一元発信	・ラジオ、SNSその他の情報媒体による情報発信 ・「令和」「万葉」等、太宰府ならではのテーマによる観光プロモーション ・デザイン性の優れたパンフレット・ポスターの作成 ・本市のイベントや伝統行事の魅力的な発信 ・だざいふ応援大使を活用したプロモーション
② 国外観光プロモーション	インバウンド*誘客に向けたプロモーションの実施	・国、県、JNTO*等との広域的な連携による合同プロモーションへの参加 ・海外人気インフルエンサー等を活用したSNSによるプロモーション

基本戦略3 受け入れ環境の整備・充実

基本施策	方針	主な取り組み(例)
① 交通利便性の向上	・市内二次交通の改善による回遊性向上 ・福岡市からのアクセスの良さをアピール	・まほろば号の観光ルート活用 ・レンタサイクルの利用促進 ・市内西側駐車場(政庁跡前)の有効活用 ・MaaS*アプリ導入の検討
② オーバーツーリズム*への対応	地域一体でのオーバーツーリズム*対策の実施	・参道周辺における喫煙所やごみ箱の設置検討 ・観光客へのマナー啓発 ・混雑状況可視化システムの利用促進 ・観光案内所での回遊性向上のための情報提供
③ ユニバーサルツーリズム*への対応	ユニバーサルツーリズム*への対応	・ユニバーサルツアーモニターツアー(バリアフリー環境整備状況の調査、バリアフリーツアーの実施可否検討) ・外国人向けの案内表記の充実
④ 観光DX*の推進	観光DX*による観光客の利便性向上	・観光関連情報の一元化 ・キャッシュレス決済の促進 ・多言語音声観光ガイドアプリの活用
⑤ 施設・建物の整備	門前町や西鉄太宰府駅周辺の再整備	・門前町リノベーションプロジェクトの推進 ・太宰府館の活用および運営方法の調査検討

基本戦略4 関係機関との連携強化

基本施策	方針	主な取り組み(例)
① 民間事業者等との連携	民間事業者等との連携による観光コンテンツの開発	・観光ビジネススタートアップ支援事業 ・官民協創プラットフォームの構築
② 学校・教育機関との連携	市内学校との連携による観光コンテンツの開発	・太宰府キャンパスネットワーク会議との連携 ・学校が持つ専門的知見の観光施策への活用 ・学校への観光施策に関する出前講座派遣
③ 国内外自治体等との連携・交流	国内外自治体等との連携による観光コンテンツの開発、広域的な誘客	・日本遺産「西の都」の構成文化財を活かした「文化観光」の推進 ・四王寺山・宝満山の歴史や自然の癒しをテーマとするヘルスツーリズムの推進 ・合同プロモーションの検討 ・観光案内所間での連携 ・姉妹都市・友好都市との観光交流

第3章 計画の目指す姿

基本戦略5 持続可能な観光地域づくり

基本施策	方針	主な取り組み(例)
① 地域資源の保全・活用	良好な景観や歴史的風致に配慮した環境及び地域資源の保全・活用	・地域資源の保全・活用 ・景観計画等に基づく良好な景観の形成・保全・活用 ・文化財保存活用地域計画に基づく文化遺産の保存と観光における活用促進 ・歴史的風致維持向上計画に基づく歴史まちづくりの推進と観光における活用促進 ・駅周辺地域及び4館を拠点とする地域資源を生かした観光周遊に資する都市空間の形成
② 観光人材の育成	観光ガイドの育成及び観光ガイド派遣システムの構築の検討	・多言語対応、障がい者対応を含めた有償観光ガイドの育成 ・登録制のガイド派遣システムの構築の検討 ・観光コンシェルジュの育成 ・地域観光コーディネーターの育成と活用 ・本市の歴史・文化に関する知識の普及促進
③ DMO*を含む自立型地域観光組織体制の検討	「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの司令塔となるDMO*を含む自立型地域観光組織体制の構築に向けた調査検討	・DMO*を含む自立型地域観光組織体制の検討 ・太宰府ブランド創造協議会の在り方の検討 ・観光施策における地域団体との連携
④ 市民の観光施策への参画	観光施策を通じた市民のやりがい、生きがい、地域への愛情や誇りの醸成	・史跡解説ボランティアとしての参画 ・経験を活かした体験型観光コンテンツの提供 ・SNSによる太宰府の魅力発信者としての市民参画 ・観光施策における企画形成段階からの市民参画 ・地域一体となった文化観光教育を通じた地域への愛着と誇りの醸成促進 ・事業を通じた旅行者と市民との交流促進
⑤ 安心安全な観光地域づくり	災害等にかかる危機対策の整備による安心安全な観光地域づくりの推進	・観光事業者向けの災害対策ガイドラインの整備 ・国内外観光客への災害対応マニュアルの整備 ・観光地における多言語対応な緊急情報発信用電光掲示板の設置 ・市ホームページや観光地におけるリアルタイムでの緊急情報発信 ・観光施設等における安全対策の整備と避難訓練の定期的な実施